

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいちむぐる		
○保護者評価実施期間	R7年 5月 2日		~ R7年 5月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R7年 5月 2日		~ R7年 5月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 5月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アットホームな事業所の環境を活かし、のびのび楽しめる支援を心がけている。	子ども同士の関わりを大切に職員は必要以上の介入をしないように支援を行なっている。	職員間の連携を充実させさらにアットホーム感が深まるようにしていきたい。
2	就学前から小学生、中学生以降も支援が可能なので継続的な支援ができる。	子どもの状況に合わせた支援を心がけ安定した療育を目指している。	ライフステージに沿った目標も意識しながら個に合わせた支援計画を作成していく。
3	就学移行時において環境の変化を少なくし、スムーズに移行できる。	幼稚園との連携を図り、スムーズに修学に移行できるように準備している。	就学移行支援を明確に設計し、さらに不安なく移行できるように支援する。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	対象年齢の幅が広く同時に行う支援の難しさがある。	年齢や発達の幅が広いいため、個別の対応への調整が難しくなってくる。	グループを分けたり、時間帯を分けたり、できる限り個に適した支援を行なっていく。
2	小さい子が大きい子の不適切な行動を真似してしまうことがある。	子ども同士の関わりによりいい部分も悪い部分も吸収されてしまう。	大きな子の支援の充実から適切な行動が小さい子に広がっていくように支援していく。
3	職員の支援が分散してしまう。	同時帯に児発・放デイの利用者がいるので、個別に対応する職員が増えてバランスが悪くなってしまふ。	サポートスタッフの活用を図り、安定した支援を目指していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 みらいちむくる

公表日 R7 年 5 月 30 日

利用児童数 4

回収数 4

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2	1		1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。		2		2	職員の入れ替わりが多く、名前・顔・人数などが把握できていない。	研修制度の充実や働きやすさの整備を行い職員の定着を図っていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		1		3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2		1	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2			2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3			1		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1			3		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2			2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1			3		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2			2		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2			2		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2			2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			2	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	2			2		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1	2		1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1			3		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			1	3		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2			2		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2			2		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。				4		
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2	2					
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2			2		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1			3		
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1			3		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1	1		2		
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	4					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	2	1		1		
	29 事業所の支援に満足していますか。	3	1				

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	みらいむくくる	公表日	R7年5月30日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	4	2	加配を配置することにより余裕を持っている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	時計に数字を貼り付け読み取りやすくしている。階段に手すりを設置している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	毎日清掃を行っている。	1階が保育部のため午種時間に気を配ることがある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	4	2		全体で取り組めるように組織化を図る。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2		実施期間が短い。自己評価の回収率が悪い。周知を徹底していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		外部による評価も検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	3	3		定期的研修など計画を作成し実施に努めている。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	4		支援プログラムをHP上にも公表し全体の周知を図る。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	1		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの偏害の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する術により確認しているか。	4	2		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	3	おでかけや、職員や知育委員の入れ替えを行い子どもたちにとっての支援を行っている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	2		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1		毎朝情報共有を行いながら統一した支援が行えるように確認を行っている。
関係機関や保護者との連携	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	5	1		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	6			
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルーシブ推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2		
	28 (28～30は、センターのみ回答)				
	29 地域の他の児童発達支援センターや障害児発達支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	30 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けた。職員を外部研修に参加させているか。				
保護者への説明等	31 (31は、事業所のみ回答)				
	32 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。	3	3		
	33 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2		
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35 家族の抱えの向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5		外部からの研修場もあるため保護者への共有、案内に努める。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1		
	37 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの偏害の利益の是非考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の意向を尋ねているか。	5	1		
	39 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1		
	40 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1		
非常時等の対応	41 定期的に、保護者等と連携する機会を設けているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		保護者会の開催や保護者会イベントの実施で保護者が交流を促せる場の提供に努める。
	42 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	4		
	43 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	4		HP上での公開や訓練・研修の実施時に情報共有を図り周知につなげていく。
	44 定期的に、保護者等と連携する機会を設けているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		
	45 定期的な連絡、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	4		上記と併せて実施していく。
	46 事前に、簡易や予防接種、てんかん発作等のこどもの状態を確認しているか。	4	2		
	47 食料アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2		
	48 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	4		子どもたち、従業員が安全に活動できるように十分な計画の作成と訓練を実施していく。
	49 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	4		HP上での公開や訓練・研修の実施時に情報共有を図り周知につなげていく。
	50 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討を行っているか。	4	2		
51 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				
52 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し周知した上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				